

学校 教育 目標	『「まち」とともに歩み、ともに学び 自立できる子ども』の育成を目指します。 ○自ら課題を見つけ、多様な解決をしていく子(知) ○個性を伸ばし、互いのよさを認め合える子(徳) ○自他の健康や安全に留意できる子(体) ○「まち」を愛する子(公) ○地域、日本、世界に目を向ける子(開)				
	学校 概要	創立 60 周年	学校長 宮本 雅司	副校長 中野 直茂	2 学期制 一般学級: 29 個別支援学級: 7 児童生徒数: 998 人 主な関係校: 樽町中学校 師岡小学校 綱島小学校 綱島東小学校 大曽根小学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	樽町中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>〈自他を大切にし、互いに認め合う力〉 〈人やまちと関わる力、コミュニケーション力〉 〈よりよく問題を解決する思考・判断・表現の力〉 〈自らを振り返り、調整する力〉</p>	樽町中学校 師岡小学校 綱島小学校 綱島東小学校 大曽根小学校	<p>共に学び合い、自他を大切に認め合う子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスのとれたコミュニケーション能力の育成をめざした授業の推進と実践 ・だれもがわかる、参加できる授業づくりの推進 ・児童生徒指導や特別支援教育の情報交換を実施 ・ブロック教務主任会で、授業・行事・児童会生徒会活動、部活動の交流の設定

中期 取組 目標	<p>○「まち」とのつながりを感じながら、自分を見つめ 自分をつくる子どもを育みます。 今の大曽根小学校や「まち」のよさを持続して活かしながら、はじめは、大曽根小の子どもたちに身に付けて欲しい資質や能力について教職員間で共有し、育成するための教育活動について授業実践や研修等を通して見直します。そして、目指す教育目標や資質・能力育成のための教育活動の実践と改善に努め、教育目標や中期取組目標の達成度や子どもの資質・能力の育ちを検証します。 3年間を通して、望ましい判断や表現ができる子の育成、学びの価値を実感できる教育活動の改善、地域や保護者等学校関係者と共に育む学校づくり、全教職員のチーム力の向上を図ります。</p>
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	生きて働く学力	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の力やコミュニケーション力、思考・判断・表現の力を育む授業づくりや教育活動の改善を図る。 ・授業づくりや教育活動の改善を学年等のチームで協働して推進する。 ・一人一人が問いをもって学びを調整できるように自分の思いをもつ姿を大切にす。 ・学びに効果的なICT機器の活用や推進を図る。
担当	重点研推進、評価	
徳	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般で、互いに認め合う姿を価値付ける指導や支援を行う。 ・職員も児童も共に挨拶し合う風土を継続する。 ・学級や学年、たてわり活動等を通して、子ども同士がかかわる活動を大切に、よりよい人間関係や望ましい集団づくりの構築を図る。 ・人権週間等の取組の充実を図る。
担当	心の教育推進、児童指導	
体	健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ・常に安全に配慮した教育活動に努める。 ・学校保健委員会をはじめ、子どもが自分事として健康で安全な生活を継続する意識を高める。 ・日常の外遊びや縄跳び週間等、体力づくりの取組の充実を図る。 ・給食週間をはじめ、子どもの食育への関心が高まる環境づくりを進める。
担当	体育、保健、食育	
公開	地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・重点研究をはじめ、地域の有効資源を活用した授業づくりや教育活動推進に努める。 ・幼保小連携推進地区事業3年目として、これまでのコスモス保育園をはじめ近隣の園と連携した教育活動を踏まえ、なお一層の連携推進を図る。 ・学校運営協議会や大曽根応援団等、町内会や地域コーディネーターと連携した教育活動の推進に努める。 ・交通安全教育や防災安全訓練を警察や保育園、地域等の関係機関と協働して行う。
担当	地域連携推進、幼保小、防災安全	
いじめへの対応		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のいじめ防止対策委員会や認知した際の特別委員会を開き、未然防止や認知した案件の早期対応を行う。 ・YPアセスメントや児童アンケート等を定期的に行い、いじめの早期発見や解決に努める。 ・日常から自尊心や互いを認め合う教育活動の推進に努め、いじめのない学校風土を継続して構築する。 ・担任や専科、専任、SC、SSW、管理職が日々情報を共有し、保護者や関係機関と連携して、いじめや不登校、問題行動の解決に向けて丁寧に対応していく。
担当	児童支援専任	
人材育成・組織運営(働き方改革)		<ul style="list-style-type: none"> ・メンター研、前期モデル研、後期モデル研等、キャリアステージに応じた教職員の校内研修の一層の充実を図る。 ・校務の重点化や優先順位を意識し、個々がワークライフバランスの取れた働き方の目標をもち、改善に努める。 ・退勤時刻は遅くとも19時を目指し、区内他校との比較でもよりよい結果が得られている時間外勤務時間の少なさを持続する。
担当	教務部	
特別支援教育		<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする児童に対する指導方法の工夫・改善を行い、どの子にも分かりやすく、楽しいと感じられる授業をめざし、全職員で取り組む。 ・職員会議や学年研をはじめ日常的に特別な支援や配慮を要する児童についての情報を職員間で共有し、丁寧に適切な対応を行うことができるようにする。
担当	特別支援教育	